

「県民との意見交換」に係る主な意見等（11月末時点）

1 西播磨地域「ビジョンを語る会」

地域の様々な団体・グループと地域の課題や将来像等について意見交換を実施

	開催日	開催市町	参加者数	主な意見
1	8/18	たつの市	12	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に誇りを持ち地域を背負って発信する若者を一人でも増やしたい。 ・子どもが住みたいと思えるまち、楽しめるまちを考える必要がある。 ・教育の中にたくさんの自然、体験の場を取り入れることが大切。
2	9/7	赤穂市	24	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業にとって人材確保（特に高校生）は大きな経営課題の一つ。生産現場においては、IoT、RPAを導入し労働生産性を上げ、女性でもできるような効率化を図っている。 ・近隣自治体や他団体と連携したインバウンド対策が必要。 ・防災意識の向上、高潮に強いまちづくりを進める必要がある。
3	9/14	たつの市	20	<ul style="list-style-type: none"> ・県外大学から兵庫や地元に戻ってくる仕掛けづくりが必要。 ・地域活性化には移住・起業しやすい環境づくりが必要。 ・子育て中の女性等が働ける多様な働く場の確保。
4	10/1	たつの市	10	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や地場産業など、技術継承や担い手の確保が課題。 ・女性が活躍できる社会の実現を目指している。 ・豊かな自然、まち並み等、地域の良さを次の世代にも残していきたい。
5	10/9	たつの市	35	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、ますます地域や近所での支え合いが必要になる。 ・知名度を上げ、地域の強み・特色を活かした取組みが重要。 ・市街化調整区域の見直しによる遊休農地の有効活用が必要。
6	10/27	宍粟市	24	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎の地域資源を活かした交流人口を増やす取組みが必要。 ・自然体験の場など多自然地域ならではの良さを引き継いでいくことが大切。 ・コミュニティバスの維持等地方の移動手段の確保や買い物難民対策が必要。 ・地方の教育の機会と質の確保が必要。
7	11/9	太子町	16	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの転入により新しい家が増えているが、顔も名前もわからず、コミュニティの継承が課題。

				<ul style="list-style-type: none"> ・若者が職人になりたがらない。若者の新しい価値観や意見も取り入れていく必要がある。 ・ここという観光地がない。交流人口を増やすような魅力的なスポット、環境づくりが必要。
8	11/10	相生市	7	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の進化により都市部でなくても仕事ができるという前提で、空き家、遊休農地の活用等、地方の住環境整備が重要。 ・地域外から集客できる観光資源を創出していく必要。 ・商店街があるがシャッター通りになっている。一階が店舗で二階が住居になっており、流動性が低く、新しい事業への活用の仕方が難しい。
9	11/16	上郡町	14	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の人口減対策として、外国人の活用もポイントになる。いかに外部から人を呼び込んでくるかが課題。 ・田舎は閉鎖的で外部の者を受け入れない風潮があるので、地域で変えていく必要がある。 ・町が寂しくなってきたので、登山を核にまちを活性化しようと取り組んでいる。
10	11/24	佐用町	14	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の加盟店が減っていることが、ボディーブローのように経済にダメージを与えている。 ・佐用駅前にコワーキングスペースがあるが、バイタリティがある人が少ない。 ・出ていく人の若年化が進んでいる。消滅しそうな小規模集落が増えており、残った人の労力が大変になっている。

2 ビジョン出前講座

高校・大学の授業等で新しい将来ビジョンについて学生と意見交換を実施

- (1) 開催日 11月25日
- (2) 場 所 県立大学附属高校
- (3) 参加者 附属中学3年・高校1・2年 387人
- (4) 主な意見
 - ・上郡町は、地域住民との繋がりが深い。四季の移り変わりが感じられる豊かな自然など、町の魅力を外に伝えていきたい。
 - ・佐用町で教師になるのが夢。もっと若者が増えて暮らしやすい町になってほしい。そのためには、地域住民が協力して佐用の魅力を効果的に発信することが大切。
 - ・赤穂の特色や伝統を様々なツールを活用して発信していきたい。赤穂の魅力を知ってもらえれば、移住・定住者が増えるのではないかな。

3 西播磨地域デザイン会議

県民が日頃感じている地域課題や地域の将来像を提案し、2050年頃の地域デザインを描くことを目的としたワークショップを実施

- (1) 参加者 ビジョン委員をはじめ、西播磨の幅広い層の県民 25名程度
- (2) 実施回数 5回（同一メンバーで実施）
- (3) 開催場所 西播磨総合庁舎
- (4) 開催日・主な意見等

	開催日	内容・主な意見
第1回目	9/19	<p>「①誰かに紹介したい西播磨、②課題・問題点、③こうなったらいい西播磨のグループ討議」</p> <p>①誰かに紹介したい西播磨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然（森、川、海など）、子どもが遊びやすい環境 ・ほどよい田舎、以外に便利、人が少ない ・あたたかく人が良い ・古いまちなみ等が残る歴史 ・災害が少なく、温暖な気候 など <p>②課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家や耕作放棄地の増加 ・人口減少、人口の取り合い、若者の転出、子どもが少ない ・公共交通不便地・空白地が多い ・閉鎖的、地域コミュニティの維持が困難 ・歴史等保存活動に消極的 など <p>③こうなったらいい西播磨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都会に出ても帰りたくなるふるさと、誰もが住みたいと思う地域 ・若者で活力があるまち ・多自然を活用した交流型地域、地域産物のブランド力向上 ・働く場がある地域 ・環境にやさしい農業地域 など
第2回目	10/25	<p>1回目のワークショップで「同じテーマでも意見が対立している原因を議論し認識を共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観の相違や地域間、世代間ギャップなど
第3回目	11/15	<p>「30年後の未来を描く問いかけにグループで議論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光はあるもので勝負するか⇒歴史・文化・自然等いまある地域資源を活用して勝負する ・子・孫に西播磨で子育てしてほしいか⇒自然豊かな場所で子育てしてほしい ・自治会は今の形で存続していたほうがよいか⇒役割を見直しコミュニティや防災のため存続 など
第4回目	12/20	—
第5回目	1/24	—

西播磨地域「ビジョンを語る会」での意見

1 暮らし・生活・まち・地域

◆地域コミュニティ

(コミュニティの若い世代への継承)

- ・町内でも年齢層の偏りがあり、外部から新しく入ってきた人には、コミュニティが受け継がれていない。
- ・外部からの転入により新しい家が増えているが、顔も名前もわからない。
- ・新しい意見を取り入れて実行しようとしても、親世代の古い価値観で潰されてしまう。

(コミュニティの閉鎖性の打開)

- ・地方の人口減対策として、外国人の活用もポイントになる。いかに外部から人を呼び込んでくるかが課題。人がいないと消費も回らないし、経済も回っていかない。
- ・田舎は閉鎖的で外部の者を受け入れない風潮があるので、地域で変えていかなければならない。

(コミュニティやご近所同士の支え合い)

- ・地域でいつまでも健康で暮らせる、誰も取り残されない地域づくりについて、どうすればよいか考えている。2030～2050年以降になると人口按分率が変わり、行政の個別給付サービスが追いつかないのではないかと考えている。ミニマムな単位で子どもから高齢者まで一括して見ることができるチームを、どれだけ地域の中にちりばめられるかという発想が必要ではないか。

(これからの時代には「おせっかいな人」が必要)

- ・高齢化率55%を超える小さな地区で働いているが、その地区が好きで、「おせっかいな人」が多い。しがらみとも言えるが、これからの時代に必要だと思う。物をくれたり、子供の面倒を見てくれたり、若い世代が抱えている悩み、延長保育が短くフルタイムで働けない問題を、おせっかいな人が担うことにより解決するのではないか。自分がその中に飛び込んで、実践出来ればいいと思っている。

◆まちづくり

(便利な昭和初期のまちづくり)

- ・便利な昭和初期になればいいと思っている。昭和初期時代は、焼け野原のまちを何とかしようと地域が同じ目的で同じ方向を向いて動いていた。今は便利な世の中になり、地域よりも個人の権利しか見ていない。

(住みたいと思えるまち、楽しめるまちづくり)

- ・各自治体は、少子対策していますといいながら、人口の取り合いになっている。そ

うではなく、子どもが住みたいと思って定住していくまちづくりをしていけば、他所から取らなくても済むのではないか。子どもは住む理由がないから出て行く。

- ・子育てしやすいとか、子どもが安全な地域という目標になりがちだが、子どもがどうしたら楽しくなるか、楽しめる地域を考えるのも一つの手法。
- ・子どもが住みやすい地域にしていきたい。

（地域の良さを伝える・残す）

・都会に近い田舎で良いところ。景観条例など気をつけていて、道路のガードがベージュ色だったりとか、しっとりとしたまちづくりの感覚は、見習うべきところ。自然豊かでもある。30年後もこの良さを残していければいい。

・来年度、新規採用として西宮市や加古川市から採用した。定着してもらえるよう、宍粟のいいところを伝えていこうと考えている。

・揖保川と千種川の清流は、子どもたちの良い自然体験の場となっている。こうした多自然地域ならではの良さを引き継いでいかなければならない。

・地域の夏祭りを開催することで、人が集まり、まちに元気を与えられる。今年はコロナ禍で開催できなかったが、祭を楽しみにしている人達の声も聞いたので、次世代の子供たちに残していきたい。

（播磨科学公園都市の新しい活力の創出）

・テクノの状況について、交通の便が悪く、近隣に大きなスーパーもない。産業用地はある程度うまくいっているようだが、住宅用地は余っている。鹿の餌場になるアーバンデザイン（広い植樹帯や塀の禁止など）も見直した方がいいのではないか。

◆人口減少・少子高齢化

（人口減少・少子高齢化）

- ・14歳以下が少ない上に、さらに減少することが問題。
- ・同じ市内でも子どもが多いところと少ないところの差が大きい。
- ・自治体間の連携がなく、人口の取り合いになっている。
- ・出ていく人の若年化が進んでいる（小学、中学で出てしまう）。
- ・消滅しそうな小規模集落が増えており、残った人の労力が大変になっている。
- ・社会保障やインフラの維持が厳しくなっている。多自然地域でも自活ができるような仕組みが必要。

（地方の住環境の整備）

・特に地方部の人口減少が課題である。テクノロジーの進化により都市部でなくても仕事ができるという前提で、地方の住環境の整備が必要である。企業が移ってくることができれば、人口流出の一番の歯止めになる。

・土地が安く、空き家も多くあるが、土地代から解体費用を差し引くと赤字になってしまうため、持ち主がなかなか手放さない。解体費の補助があれば、流動性が高まるのではないか。

- ・新幹線の駅もあり通勤しやすいので、ベッドタウンとしての魅力が高まる。

（子育て環境）

- ・子育て環境について、子どもがのびのびと遊べる公園や産婦人科があれば良い。
- ・医療体制の充実は、住居選びの大きなポイントになる。
- ・産婦人科がない。

（未婚・晩婚化対策）

- ・若い世代の婚活が全体的に必要な。最近、未婚化・晩婚化が相当増えている。青少年活動事業など若い人の交流の場が必要。
- ・人口減少について、結婚しない自由や子どもを産まない自由がある中、有効な手段が少ないと思うが、子どもの頃から意識改革を促していくことが必要。

◆交通・移動手段、買い物

（高齢者等過疎地の移動手段の確保）

- ・車屋をやっているが、高齢による免許返納者や70歳以上の交通事故が多くなっている。高齢者の移動手段の確保が必要である。
- ・特に高齢化の進んだ郡部の人の輸送手段の確保が必要である。
- ・市内の公共交通機関はバスしかないため、コミュニティバスがなくならないように維持して欲しい。また、バスの運行システムの利便性を高め、多くの人を利用できる仕組みへの改善も必要。

（買い物難民対策）

- ・町内に唯一あった小売店が2年前の3月に閉店。町内全世帯を対象にしたアンケートによると、食料品の買い物に困っている、同じような店舗の開店を望む声が多く、住民グループが自主運営による店舗開業を模索している。

◆教育・次代を担う人材育成

（次代を担う人材の育成）

- ・駅前にコワーキングスペースがあるが、バイタリティがある人が少ない。

（地域に誇りを持つ若者を増やす）

- ・スポーツで頑張っている選手は、地域が積極的に関わり、地域の愛情をたくさん貰っているような気がする。地域の誇りを持って地域を背負って発信してくれる子どもを一人でも多く増やしたいという思いで活動をしている。

（地域で子どもを育てる）

- ・学校以外のところで地域がいかに深く関わるか、地域で子どもを育てることが大事。

（本物の体験が大切）

- ・子どもに夢を与えたいとの思いで、一人一人が主役になれる体験をさせてあげたいと思っている。感性を養うことが自由な発想につながると思うので、たくさんの自然を教育の中にどう取り入れるかが大切。スマホで世界が見られるなど、デジタルの発展は悪いことではないが、スマホを見ない者に逆に感性が豊かな人が多いように感じ

る。自分の目で見て触って感じられる、そういう体験の場を大切にしたい。

（教育環境や質の確保）

- ・マンモス小学校のPTAをやったこととして、児童数の多少に関わらず担任教諭が1人であるため、児童が少ない学校の方が先生が目が行き届き、よく指導ができるので、不公平感を感じていた。教員・教育の充実が必要。
- ・全体的に見れば少子高齢化と言われているが、同じ市内の中でも子どもが少ないところ、多いところと差が出ているので、何かサポートできるような仕組みづくりも大切。
- ・言われたことは完璧にやるが、自由な発想ができない子どもが増えている。
- ・市の教育の機会と質の確保ができるか不安を覚えていおり、地方の教育環境やデジタル教育環境の整備を図ってほしい。新ビジョンにも教育を盛り込んで欲しい。
- ・子ども達の教育環境の充実は誰もが関心が高い。安全対策としての通学路の看板やグリーンベルトの設置、コロナ禍で活用も増えた体育館等への空調設備の設置も重要。
- ・ギガスクール構想について、端末機器の整備とともに、指導する教員等の人材育成にも取り組む必要がある。

（最先端のITと原始的な教育の共存）

- ・人口が減ることより、将来のことを考えない人が増えることの方が怖い。最先端のITと原始的な教育の共存、心を伝えて、その心をどのようにITに載せるかという視点が、次の世代を託す子ども達の教育に必要なのではないか。

◆UJIターンの促進

（県外大学から兵庫に戻ってくる仕掛けづくり）

- ・県外大学へ進学しても地元に戻ってくる仕組みづくりが必要。
- ・UJIターンの促進について、兵庫の子どもが県外の大学から県内に戻ってきたら、3年間家賃を無料にする案を提案したい。就職活動の時から地元を意識させることが大事。戻ってくるきっかけになる。
- ・子どもが羽ばたくことはいいことだが、地元に戻ってこようと思う選択肢を考えられるようにしておく必要がある。

◆人材活用

（女性が活躍できる社会）

- ・女性が活躍できる場になるのか悩んでいる。自分の経験から、会議でも女性が一人だけだと意見を言ってもスルーされるので、女性が3割以上いないとなかなか変わらない。
- ・老々介護等、要介護者のいる世帯の女性に負担がかかっている。介護は先が見えない不安があり、女性が働くことを委縮させている原因の一つ。女性が家庭に埋もれず、自分の力を社会に還元させるべく活躍するには、介護など福祉を充実が必要。

（元気高齢者が保育参加できる仕組み）

- ・元気な高齢者が、保育に参加できる仕組みがあればいいのではないか。
- ・前年度から子育て支援員という制度があるが、保育士不足のため、高齢者で子どもを見ることが出来る方がいれば、是非助けていただきたい。

◆多文化共生

（外国人の活用）

- ・地方の人口減対策として、外国人の活用もポイントになる。
- ・外国人の雇用も検討しているが、費用対効果がなくなりつつある。
- ・外国人の雇用に関しては問題はないが、市内で外国人に貸してくれるアパートが極端に少ない。
- ・外国人は自国の文化をそのまま持ち込んで就業するため、地元採用者との調和を図っていく必要がある。
- ・労働力不足の対策として、外国人を含めた労働者を確保する必要がある。

（多民族社会の必要性）

・今回の県の将来ビジョンは、人口減少を前提としたビジョン。人口減少は仕方がないというのが議論の前提だが、人口が増えることによって我々は豊かになったので、今後も豊かになるためには、人口は必要だと思う。行政は少子化を防ぐためにいろいろとやっているが、なかなか成果は上がってない。人口減少を防ぐためには、日本は多民族社会にならないといけないと思う。

◆観光・交流・地域の活性化

（ブランディングが課題）

・兵庫県の魅力だが、衣食住の全てで他の都道府県に負けない魅力を持っているが、関西では大阪が強く、また東京や名古屋にも勝てないような気がしている。兵庫はブランディングが課題である。

（地域の強みを活かす）

・神奈川の友人にたつのの魅力聞いてみたら、「焼きガキが食べれるなら行ってもいい。」と言っていた。都会の人から見ればカキは魅力で、人を誘致する武器になることを気づかされた。強みを伸ばすにはどうしたらいいか考えることが大事。地域の特色を生かせるような取組が重要である。

・定住者を確保することは難しいので、交流人口を増やす取組が必要。そのためにも田舎の地域資源（ゴルフやスキーなど）を活かすことが求められている。

・仕事の在り方が変わり、住むところの自由度が増せば、都市部で無理をして家を構えている人たちを太子町や西播磨に引き入れることができれば、人口の下げ幅は抑えられるのではないかと。交通の便が良いところ、自然も豊か、子育て環境等、地域の良さをPRしていければよい。

（地域外から集客できる観光資源の創出）

・相生は造船で大きくなったまちであり、観光産業はもともと弱い。大きなイベント時ぐらいしか人を呼び込めない。

・子どもの頃から相生湾はペーロンのイメージがあったが、道の駅とか相生湾を活かしきれていない。

・相生の観光資源といえばカキしかないが、坂越などPR上手なところに観光客をもっていわれている。

・ペーロン祭りだが、スポーツ的な要素もあり、みんなにマッチするのは困難。参加する若者も減ってきている。出場しているチームは楽しんでいるが、ペーロン祭りに対する市民の関わりは少ない。みんな前日の花火を楽しみにしているだけで、翌日のペーロンの観覧席はガラガラな状況である。

（山城を核としたツーリズムの推進）

・町が寂しくなってきたので、登山で町を活性化しようと8年前から取組んでおり、登山道を32km整備した。

・県民局主催の山城ガイド養成講座に参加している。県民局の山城関連事業は、交流人口を増やし地域を元気にしようとする良い事業なので、ぜひ継続してもらいたい。

（インバウンド対策）

・赤穂のインバウンドは、広島や岡山、四国等、岡山空港や広島空港を利用されながら周遊される方が主。瀬戸内DMOや、岡山・広島の行政、JR西日本とタイアップしながら、姫路や赤穂で周遊してもらえようような施策が良い。

・太子町には、ここという観光地がない。これまで関西空港から姫路城まで足を運ん

でいた外国人が、西播磨まで来てもらえるように、魅力的なスポット、環境づくりを考えていくことが必要。

(地域産業の活性化)

・観光や食を切り口にアピールし、交流人口の増加や定住のきっかけになれば、地域産業の活性化にも繋がる。

(認知度を上げる取組)

・たつの市の認知度が低い。個人が SNS 等で情報発信はしているが、重要伝統的建造物群保存地区に指定された観光資源や、海、山など、マスコミとのタイアップにより知名度を上げることができないか。

(3つの日本一とまち並みの相乗効果で地域活性化)

・龍野は「レザー」「そうめん」「しょうゆ」の3つの日本一があるまち。この産業とまち並みを掛け合わせれば、地域を盛り上げることができる。

◆産業・商業・農業・起業

(観光産業による活性化)

・人口が減らない市町村は自分のまちの特徴をよく掘んで、その特徴を最大限に生かし、積極的に取り組んでいる。龍野は、まち並み等の観光で人を呼び込み、魅力のあるまちにして、人を増やし、観光産業として活性化させていきたい。

(移住・起業しやすい環境づくりによる地域活性化)

・竜野駅周辺の商店は、100年前の70軒から10軒程度に減少しているが、地域の活性化や賑わいづくりのため、商店がくる環境にしたい。創業支援や起業促進策の拡大により、新たな人が移住、起業しやすい環境にしていきたい。

(商店街の空き店舗対策等)

・この近くの商店街で商売をやっているが、7~8割が閉店し、シャッター通りになっている。青年部でも活用したいと思っているが、住居併用店舗で流動性が低く、新しい事業への活用の仕方が難しい。30年後は全て閉店しているかもしれない。
・商店街の加盟店が減っていることが、ボディブローのように経済にダメージを与えている。

(地域の特産品開発)

・3代にわたり飴を作っており、赤穂のしほみ饅頭や広島のもみじ饅頭のような地元材料を使った地域の特産品を開発したい。

(農業)

・農家は元気がなく、発信力も弱い。
・定年後の生活設計として、この地域には農地があった方がいい。農機具は高価なので、ある程度的人数で共有できればいい。
・イチゴやトマトなど、特色を出して農業をしている人もいるので、それぞれの地域

に応じた農業ができればいいのでは。農薬散布にドローンを使用するなど、皆さん工夫して実施されている。

（市街化調整区域の規制緩和）

- ・工場を拡張したいが、市街化調整区域のため困難。
- ・市内には、使える土地が余っていない。
- ・町内で社員を増やしたい思いはあるが、調整区域が多く、人や家が増えず難しい。高齢化で田んぼは荒れ地になり、家も建てられない。
- ・雇用を生むために工場を増築したいが、調整区域のため増築できない
- ・スクラップ事業を起業したが、市街化調整区域が多く、場所を探すときに苦労した。市街化調整区域について、もう少し柔軟に対応できれば、企業も来やすいし、働く場も増えるのではないか。
- ・阪神地域と西播磨地域に求められているところは異なるので、今ある資源を活かすことが大事だと思う。既存企業が拡張しやすいような対策をお願いしたい。

◆人材確保、担い手・後継者不足

（技術継承）

- ・技術継承に危機感を持っており、デジタル機器を使い、作業現場を画像、動画で記録してデータを蓄積している。

（労働者の確保）

- ・中小企業にとって人材確保は大きな経営課題の一つ。
- ・ここ数年、特に男子高校生の採用が非常に困難。
- ・工場内が暑いという職場環境もあり、新卒者の採用は難しい。
- ・生産現場では、IoT や RPA を導入して労働生産性を向上し、かつ女性でも出来るよう効率化を図っている。

（担い手・後継者不足）

- ・保育士不足。保育士の免許を取るのは時間もかかり、国家資格としてハードルが高い。えに、資格を持っている人が、都会に行く傾向にあり、保育士が集まらない。
- ・農家の一番の悩みは、担い手不足。少子高齢化が進む中、今ある農業の技術を後の世代にどう継承していくか、跡を継いでくれる担い手の確保が課題。
- ・他地域からは、龍野が皮革の産地であるということを認識していない。製品まで作らないと産地として認識してもらえないところがある。仮に製品まで作っても、皮革だけでは食べていけないから、いい技術やいい感性をもった若者はいるが、好きだが続けていけないという話も聞く。伝統工芸も一緒に、後継者がおらず廃業するといった悪循環に陥っている。若者が続けていけるような環境づくりが必要。
- ・素麺「揖保の糸」の地場産業を守っていかなければならない。30年前にUターンした際は町に勢いがあったが現状は厳しく、子供に対して帰って家業を継いでほしいと言えないのが現状。
- ・若者の車離れもあり、若者は自動車整備士に興味が無く、なり手が減っている。
- ・塗装業で人材不足に困っている。雨降りは仕事がなく、土日に休みたがるので、若い者が職人になりたがらない。

（若者の価値観に対する理解と商工業への新たな技術の取込み）

- ・若者が職人になりたがらない。需要があるのに仕事ができない。若者の新しい価値観や意見も取り入れていかなければならない。
- ・今の若者の意見だが、親世代のように仕事に生きるのではなく、自分の時間が大事という考えの者が多い。若者に長く働いてもらうためには、仕事の中身、やりがいよりも、本人のための時間を作ってやる環境（9時～5時勤務など）が必要なのではないかな。
- ・技術革新に関係があるのは今のところ事務仕事であって、ものづくりの現場には関係ないと感じている。
- ・現場仕事でも、機械で可能なところは置き換えることにより、少ない人数でも回せるように工夫する必要がある。生産性を向上させる機械化であったり、人手不足への対応が見いだせるような取組みも必要。

◆新しい働き方、先端技術の活用

（多様な働く場の確保）

- ・子育て中のママさんからは、働く場所がない、子ども連れでも働ける場所、2時間だけでもいいから働きたいという意見が多い。2時間だけでも受け入れてくれる企業があればマッチングできるのだが、新しい働き方改革として、そういった人の働く場も提供できればいい。

（新しい働き方の可能性）

- ・リモートワークで仕事ができる自信がついた。
- ・どんな仕事（働き方）があるかを教えるキャリア教育が必要

（先端技術の活用）

- ・地形測量は現場で走り回って図面を書いていたが、ドローンでは高さから地形まで分かる。危機感を感じ大きなドローンを購入し4人が資格を取得。先端技術を活用していきたい。
- ・オンライン診察や薬のドローン配達を実施してほしい。

（AI化と雇用維持とのバランス）

- ・現場ありきの仕事で、テレワーク化は難しい。問題視しているのが、IT化によって職を失う人がいるということ。2～3時間の軽作業は、ロボットやAIができる作業かもしれないが、職を奪う可能性があるのが実感。全てをAIにする未来構想は良いことではあるが、雇用の問題も生む。経営者は雇用も守らなければという自覚の中で、どのようにつき合っていくのが自分の課題。

（廃校の有効活用）

- ・これからは5Gの拠点を持っていくことで、ドローンの拠点にもなる。小学校にはグラウンドがあり、ドローンの発着拠点になる。オンライン回線を引いて、オンライン医療にも繋がる。ドローンで物資の運搬もできる。より発展的な有効活用ができないかな。

◆自然との共生

(これからの豊かさは自然と共生できるまち)

・ AI とかロボットとかスマートファクトリーづくりが進むほど、人間は心のバランスが大事で、自然と一緒に大切になる。自然を日常生活に取り入れるのが、これからの豊かさだと思う。若者は自然の中で余暇を楽しむようにシフトすると思うので、自然と共生できるまちが大切になってくる。

(豊かな海と下水処理との両立)

・ 室津で牡蠣の養殖をしているが、昭和 40 年代の子どもの頃は、いい意味で赤潮がいっぱい出ていた。下水処理で多量投薬により無菌にしていることもあって、海に栄養が少なく、赤潮も発生しなくなり、牡蠣や海苔等海産物の出来が悪くなった。水産業者にとって厳しい環境である。

◆防災・減災

(防災意識の向上)

・ 高潮対策について、沿岸の防潮堤を一度に上げることは困難なため、高潮が発生すると高いところに逃げるといった危機意識を個人が持つように、もっと啓発が必要。

(災害に強いまちづくり)

・ 企業の事業継続の観点からも高潮対策は急務で、高潮に強いまちづくりを進める必要がある。